

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

—2024年12月10日第154号—

<目次>

●リニア新幹線の大深度トンネル工事の中止を

◆自衛隊への青年の名簿提供はやめよ▲お知らせコーナー

- ①「新たなミュージアムに関する基本計画(案)」への市民意見の募集中
- ②新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針(案)に関する意見募集中
- ③12/14 ゆめシネマ「シェアの法則」

★編集後記

●リニア新幹線の大深度トンネル工事の中止を

～第4回市民要求実現アクションでの訴えから/その1～

11月26日の市議会開会日に市役所前で開かれた「市民要求実現アクション」で、市民9人からの市政に対する訴えがありました。

その中から、リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会の天野捷一さんの訴えを以下、紹介します。

川崎では、今、リニア新幹線のための大深度トンネル工事が行われています。

梶ヶ谷工区と東百合ヶ丘工区の2か所で、本格的な掘削が進んでいます。

しかし、リニア工事をめぐる様々な問題が、東京の品川や町田の大深度トンネル工事で起こっています。

ここでは、本当に恐ろしい事態が発生しています。

大深度工事は、大深度だから地上には影響がない、との「大深度法」にもとづいているのですが、実は、とんでもないことになっています。

8月中旬には、東京の目黒川で、リニア工事による気泡が発生しました。

その気泡の酸素濃度がわずか4%だったのです。

ふだん我々が吸っている空気の酸素濃度は21%ですが、この4%というのは、もし、吸ってしまえば命にかかわる危険な値なのです。

そして、10月の下旬には、東京町田の工区で、民家の庭から気泡と地下水が噴出しました。

町田の会の測定では、この時の酸素濃度はわずか1%でした。

JR 東海の調査では、18%から19%で人体には影響はないという結果を発表しています。

しかし、これが正確な測定だったかは、非常に疑わしい。

川崎市内大深度トンネル工事のルートには、3つの学校があります。

小学校、中学校、高校の1校ずつです。

工事は、これらの学校の校庭の下を通過して、大深度トンネルを掘ることになるのです。

もし、そこで酸素濃度の低い空気が発生し、それを吸ってしまったら、子どもたちの健康に重大な影響を及ぼすことになります。

私たちは、こうした一連の事態をふまえて、JR 東海に、先日、工事を直ちに中止することを申し入れました。

そして、今日は、この集会の後に、川崎市にも申し入れを行います。

市民、子どもたちの健康や生命に危険があるのですから、川崎としても、このリニア工事に対し、真剣に監視をし、川崎市として地下水や地質の調査をし、安心・安全がどうかを確認してほしいのです。

リニア問題に取り組んでいる私たちの運動は今年で13年目になります。

リニア工事の中止を求める裁判も行われています。しかし、JR 東海は一貫して工事を進めると言っています。

けれども、工事は大幅に遅れています。10兆円を超える費用をリニア新幹線工事に投入することは、本当に誤りです。直ちにリニア工事を中止して、このリニア新幹線事業を再検討としていただきたい。

あわせて、国会で、大深度法の廃止、あるいは抜本的な改正を実施してほしい、そうしたことが私たちの本当の要求です。

市民にとっても、他人ごとではありません。

私たちの住宅の下を直径14メートルもある大深度トンネル工事を進めることは、本当に危険です。直ちに工事を中止し、事業の廃止、見直しを求めていきます。

どうかよろしくお願いします。(拍手)

◆自衛隊への青年の名簿提供はやめよ

第4回市民要求実現アクションの訴えから/その2～栗原伸元(中原革新懇共同代表)～

川崎市は、福田市長が2期目に入った2017年から青年の名簿を自衛隊に提供しています。それまでの「閲覧のみ」から「名簿提出」に切り替えたのです。

それ以来、毎年、個人情報4項目(住所、氏名、性別、生年月日)を率先して提供し続けています。住民基本台帳の取り扱いについて2006年の改定で、それまでの閲覧の「基本的に自由」から「原則非公開」に変わり、行政でもそれなりの理由がなければ閲覧出来なくなっています。

しかし、戦争のできる国づくりをめざした安倍元首相が2019年の自民党大会で「6割の自治体が自衛隊への協力を拒否している！」と発言してから、協力する自治体が増えているのです。年々、自衛隊からの自治体への要請も強まっています。

神奈川県でも、2019年までは、全体33市町村で、閲覧でなく情報提供しているのは、横須賀市と川崎市など5つの市町村だけでしたが、現在では多くの自治体が、閲覧から提供にきりかえています。

ただ、その場合でも、本人が除外申請をすれば提供しないことを、市の広報などで知らせる自治体が多いのですが、川崎市はそれすら行っていません。

今年3月には、奈良市の18歳の青年RYUさんが、奈良市と国を相手に、プライバシー権の侵害等を訴え提訴しました。高校3年の夏に、自衛隊から突然、自衛官募集の案内はがきが送られたのです。

なぜ、自分の住所や氏名を自衛隊が知っているのか？の疑問と、本人にも親権者にも何らの通知も同意もなく個人情報が提供されたことへの抗議です。

2019年6月に共産党の宗田議員が市議会で「青年の名簿を自衛隊に提供する法的根拠は何か。」と質問、追及しました。

福田市長は、「総合的に判断し、資料提出を行っている」と繰り返し答弁しました。

つまり「法的根拠はないが、市の判断でやっている！」という事ではないでしょうか！

宗田議員は、「あらゆる施策を通じて個人情報の保護に努めるとした川崎市個人情報保護条例にのっとり、自衛隊への名簿提供をやめるべきだ。」と求めましたが、市長は聞く耳をもちません。

しかし、こんな事はゆるされません。憲法違反の個人情報の提供を川崎市は止めて下さい！

8月に北海道のはたやま和也元衆議院議員が防衛省に質問しました。防衛省は「自治体が個人情報の提供をしなくても、当該自治体に不利益な取り扱いはしてはならない、資料提出を強制するものではない。」と回答しました。

皆さん！真の恒久平和の実現を目指す「核兵器廃絶平和都市宣言」をした川崎市が、戦争の出来国づくりに協力している。こんな事は許されません。

川崎市が青年の名簿提供を止めないというなら、奈良市の高校生のように裁判に訴えよう！と呼びかけようと思いましたが、裁判は時間もお金もかかります。

それよりも、次の選挙で市長を変えようではありませんか！皆さん頑張りましょう！

★お知らせコーナー

①「新たなミュージアムに関する基本計画(案)」への市民意見の募集中

[詳しくはこちら](#)

②新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針(案)に関する意見募集中

[詳しくはこちら](#)

③ ゆめシネマ「シェアの法則」

12/14(土)かわさきゆめホール

小野武彦さん、岩瀬顕子さんのトーク・サイン会があります。

- ① 9時:アフタートーク・小野・岩瀬サイン会
- ② 12時:アフタートーク・小野・岩瀬サイン会
- ③ 15時:プレトーク・小野。岩瀬
- ④ 18時:プレトーク・岩瀬

前売予約:1000円 当日:1500円

学生・障がい者 500円

申込み 044-433-3003 ゆめホール

cinema@kawasakiyume.com

★編集後記

「黒と白のピエタ」の最終回、カーテンコールで和田庸子の写真が映し出されると、涙が溢れて止まらなくなりました。

本番だけでも11回観ているので、芝居に感動したと言うわけではなく、この座組で見事にやりきった仲間達に。

こんな素敵な作品を残して逝ってしまった和田庸子に。
そして、たくさんの困難を乗り越えやりきった安堵感。

川崎に根ざして45年、98回目の公演を終えた京浜協同劇団は、高齢化と団員減少に苦しみ、最早崖っぷち。

とてもこんな大きな芝居はできないと尻込みをする劇団に、和田庸子の娘さんをはじめ、演出の杉本さん、主演の若杉民さん、そして初演の出演者達の、力強い後押しで実現した公演です。

今まさに、世界中で戦争が拡大して、普通の暮らしをしている子ども、女性、老人が、無差別に殺害されています。

そして、互いに殺し合う兵士達。

「いまこそやるべき芝居」

「種を粉にひいてはならない」と叫ぶケーテ・コルビッツの声が、全世界に届くよう祈ります。

今回、ご来場頂いた1000名を超えるお客様の内、劇団員が誘ったのは350名ほど。

残りの650名以上を客演の皆さんが集めたこととなります。

いつもの京浜のお客さんとは違う、若いお客さんが、この強烈な「反戦演劇」を鑑賞し、感動して帰られたことは、これまでになく幅広い市民と平和への願いを共有できたこととなります。

和田庸子は居なくなりましたが、作品は生き続け、未来に生きるひとびとに働きかけ、力を与えてくれます。

作家ってすごいな。そして芸術の力はすごい。やっぱり芝居はやめられない。(Y)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/RrA1lzJkajE5?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp